

平成 27 年度第 6 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成 27 年度第 6 回文系チャレンジ講座が、平成 27 年 12 月 16 日、「バブルの発生と崩壊が日本経済に与えた影響」をテーマに、本学経済学部の村山 悠先生によって行われました。

遠隔配信された大分^{おぎのだい}雄城台・大分鶴崎・大分商業・日田・安心院^{あじむ}・別府青山 翔青・大分西・臼杵の 8 校の各高校から 158 名の高校生が受講しました。

はじめに村山先生は「1980 年代後半から 90 年代初頭にかけて、日本経済は地価や株価といった資産価格の高騰とその後の急落を経験しました。こうしたバブルの発生と崩壊は、日本経済に大きな影響を与え、「失われた 10 年」あるいは「失われた 20 年」といわれる長期不況をもたらしました。そのため、バブルの発生と崩壊は、日本経済の歴史上、特に大きな出来事だったといえるでしょう。本講義では、バブルの発生と崩壊のメカニズムを解説し、バブルの崩壊が実体経済にどのような影響を与えたかについて説明します。そして、政府と日銀がどのような財政・金融政策を行ったかについて説明します。」と、受講生



に語りかけました。

村山先生は、「バブルの発生と崩壊が日本経済にどのような影響を与えたか」をテーマに講義をされました。また、ニュースなどのよく取り上げられる“デフレ構造”についても解説をされました。

現在の日本経済の最大の問題は“デフレ”です。“デフレ”とは、物価が持続的に下落し続け、労働者の賃金等も下がり続け、不景気が慢性化するという状態です。そのような現在の日本経済の“デフレ構造”のきっかけとなったのが、1980 年代に起きたバブル経済とその崩壊です。

バブルとは、経済が実質的には成長していないにもかかわらず、金融緩和などの政策によって株価や地価だけが上昇することを意味します。その様子を泡（バブル）が膨らむように例えたわけですが、バブル期には国内にお金が溢れ、海外旅行や高級車がブームになるなど、経済の実態に合わない贅沢な生活習慣が生まれていました。その状況を警戒した日本銀行が金融引き締めなどの政策を行った結果、株価や地価が急落してバブルの崩壊が起きました。しかし、その結果、不良債権による銀行の破綻、さらには貸し渋りなどによる企業の倒産などが相次ぎ、デフレスパイラルという現象が起きました。

デフレ対策として日本政府が現在行っているのがアベノミクスと呼ばれる政策であり、金融緩和によって、デフレからの脱却を目指しているわけです。このような政策が日本経済再生の鍵になるのか、私たちは注視していくことが重要であると解説されました。

講座後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」（95%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（99%）、「授業量は適切であった」（95%）、「わかりやすかった」



（95%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」（96%）、という評価ができました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」（96%）、「映像はよく見えた」（95%）という結果ができました。受講生の具体的な声として「図表がわかりやすかった」、「聞きやすく、丁寧な語り方であった」、「ニュースで見る用語がわかり、経済の動きが繋がっていることがわかり、納得できた」「経済学部で勉強する一端を知ることができ、大分大学に興味を湧いた」など多くの感想が寄せられ、大学で学ぶ内容の深さと広さを実感できた講座になったようです。